
スポーツ庁
スポーツスペース・ボードレスプロジェクトセミナー

学校体育施設は 誰のためにあるのか

Who can make the most effective use of school sports facilities?

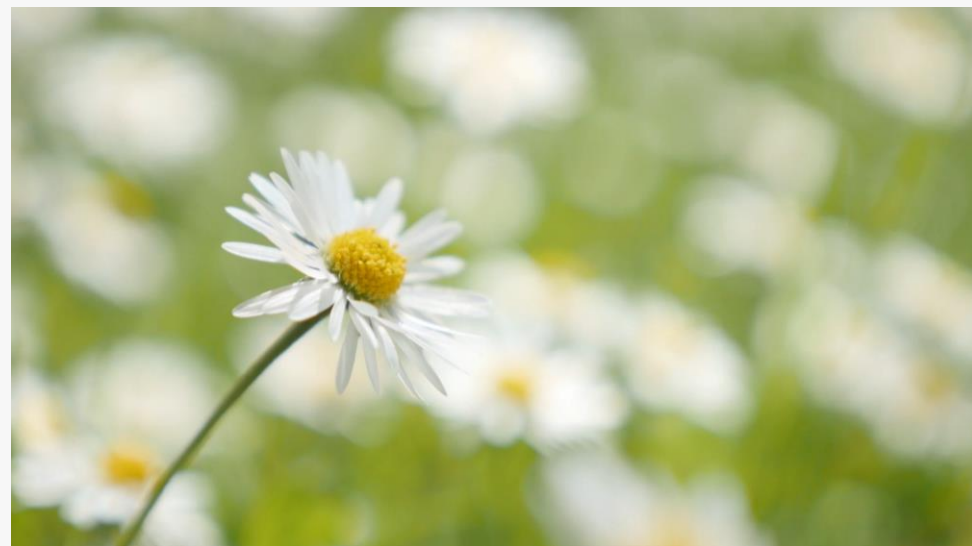
一般社団法人 飛騨シュール



All about Hida Schule → <https://www.facebook.com/hidashule>

学校管理から地域管理へ
そしてPHC (*public health care*)的
地域コミュニティの場に

*From School Administrative Management
To Regional Management
And to the Local Community Place
for Public Health Care*



一般社団法人 飛騨シュールについて

① どこにあるのか

② どういう団体か

インクルーシヴ総合型地域スポーツクラブ

2005年～2007年飛騨市健康事業受託がきっかけ

2007年～独り立ち

2009年法人格取得

● 構成メンバーは、

こども 50人（年長・小1～小6）

おとな 50人（55歳～95歳）

● 活動内容は、

こども スポーツ学童（下校～学習～身体活動）

スポ少KOD!、雪山登り、キッズスイミング

おとな 健康体操、アクアウォーク、こどもサポート

③ 所有施設

● アリエルハウス（宿泊可能）

● みんなのおうち（図書室・ギャラリー・居間）

④ スポーツ活動は市有施設を借用

岐阜県飛騨市神岡町

飛騨市23,227人、神岡町7,678人（高齢者率46.3%）

（飛騨市HPより抜粋）





スポーツスペースボードレスプロジェクトに なぜ公募したのか

➡ 2019年度神岡町内スポーツ施設指定管理者公募落選

- ➡ 飛騨シューレの活動は**スポーツプログラムが大半**を占め、スポーツ施設の利用頻度が非常に高い。が、指定管理者でないため、何かと不便。**めいっぱい有効利用できるスポーツ施設がほしい**という思いが常にある
- ➡ **以前から学校体育施設に着目**していた。神岡町内の学校体育施設（神岡小・神岡中の体育館）は市内他地域に比べ**利用頻度が低く**、場所が確保しやすいのではと考えていた
- ➡ が、**学校施設と社会体育施設とのボーダーラインがあるがゆえ①**、飛騨シューレにとって有効な利用法が見えてこなかった。それでも何かできないか、と思っていたところ
- ➡ 今回の事業公募を知り応募、**稼働率↑魅力的な企画を提案②③**

採択はされたが・・・

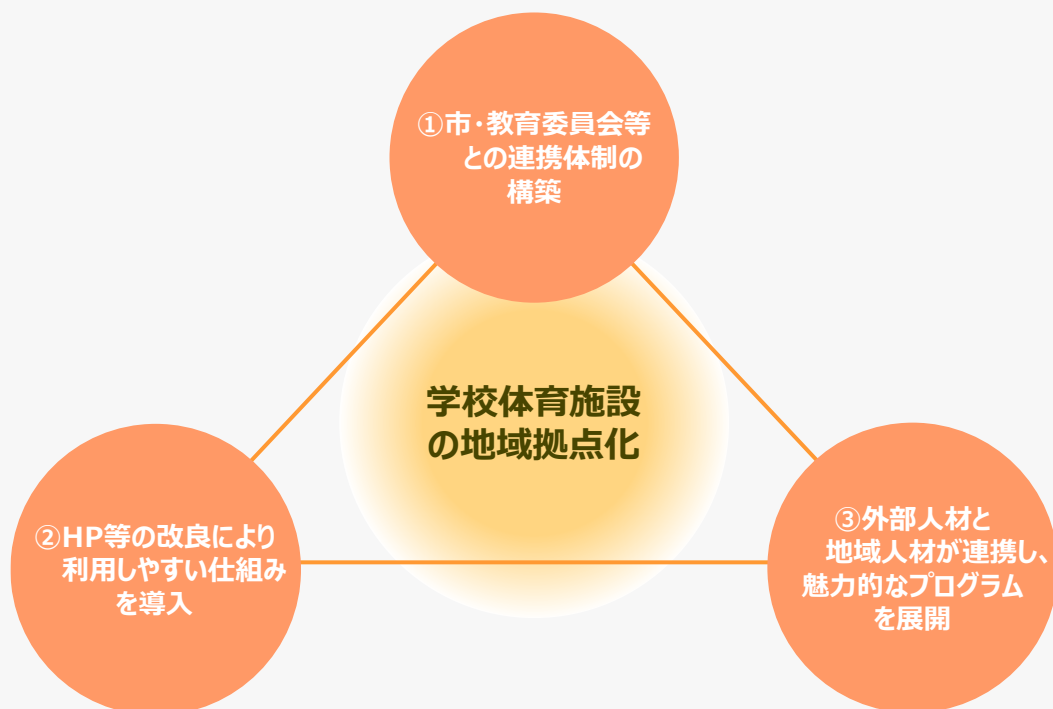
- ➡ 採択され、いよいよ企画を実現できる！と張り切ったが、**コロナ禍と校舎改修工事計画の遅れ**でプログラム企画を100%達成できなかった

これからどうするのか

- ➡ **課題の洗い出し**、プログラムの再構成、再調整
- ➡ **諦めず** 来年度に向け、できることから**やってみる**

今回の事業での実証内容

➡ 前ページの①②③の課題をあてはめると



●学校施設と社会体育施設とのボーダーライン①

➡ プログラム実施場所確保と事業全体の包括的な見通し

➡市、学校、総合型地域スポーツクラブに求められる**役割分担の検証**と飛騨市関連条例の確認：飛騨市スポーツ施設条例、飛騨市使用料徴収条例、飛騨市立学校施設開放規則、飛騨市学校運動場夜間照明施設条例

●利便性を高める方法②

➡ 受益者にとってどうか

➡そもそも使いこなされていない施設の稼働率を上げるにはどうしたらよいか➡ より使いやすい施設とするための**方策(デジタル技術)検討**

●稼働率↑魅力的なプログラム企画の提案③

➡ プログラムの展開

➡発想力に優れグッドコーチングスキルをもった人材を外部から入れ、地域人材をエデュケートする。そのため**地域人材と外部人材（大学生インターン等）との連携体制の構築と事業による地域活性を試みる**

①の実証 学校施設と社会体育施設とのボーダーライン①

➡ プログラム実施場所確保と事業全体の包括的な見通し

事業推進委員会を作り議論の場を設けることを優先

➡ 包括的な観点から➡ より有効にスムーズに使えたか
実施の検証と今後の見通し

②の実証 利便性を高める方法②

➡ 受益者にとってどうか

ホームページからプログラム予約ができるシステムを作ることを優先

➡ 受益者の立場から➡ ホームページの有効性
予約の仕方はどうだったか

③の実証 稼働率↑魅力的なプログラム企画の提案③

➡ プログラムの展開

3つのオリジナルプログラムを実施することを優先

➡ プログラムは予定通り実施できたか ➡ プログラム内容
★人材の確保★

①の実証

事業推進委員会委員

下記のような立場にいるメンバーを選任

- ・市のスポーツ振興行政
- ・部活動
- ・体育館の指定管理体制
- ・部活動
- ・岐阜県のスポーツ振興行政
- ・総合型地域スポーツクラブの動向
- ・活動場所の提供
- ・学生の研究協力の受け入れ
- ・プログラム構築・検証調査研究
- ・現場のボランティア・アシスタント
- ・育児・保育の充実の観点

➡ 事業推進委員会を6月1回目開催、2月2回目開催

●事業全体の包括的な見通し

➡ いろいろな立場の人々を集めた委員会だったが、**学校体育施設の有効利用を推進するには、市民のスポーツ普及を目指す、市教委スポーツ振興課と、学校施設管理をする市教委学校教育課、そして飛騨シュールのようなプログラムの提案や実践をする団体との、より密な連携体制が、不可欠だ**ということが分かった。

- ➡ 子育てや家庭環境に関連する課題も出てきたので、これを機に、委員会メンバーを含む**有志ネットワーク**を呼びかけ、**情報交換の場や協働プログラムの実現**を目指したい。
- ➡ オブザーバー的な方々からの意見提案助言が大いに役立った。今後も関わっていただけるような働きかけをしたい。

●施設に関する課題

・**飛騨市関連条例の確認**：飛騨市スポーツ施設条例、飛騨市使用料徴収条例、飛騨市立学校施設開放規則、飛騨市学校運動場夜間照明施設条例

- ➡ 朝5時～7時と18時～22時までの利用に限られる。
- ➡ 学校行事のあるときは使えない（とくに3月～4月）
- ➡ 予測ができない学校専用使用の時がある（熊の出現）
- ➡ 体育館の隣の施設で市教委主催の「学童保育」がある
- ➡ あくまで学校優先

・**体育館の鍵の保管・場所予約は桜ヶ丘指定管理者に事業委託**しているため、桜ヶ丘体育館まで鍵をとりに行かなくてはならない。返却も桜ヶ丘体育館まで行かなくてはならない。場所の予約は桜ヶ丘体育館窓口にて対面紙ベースで行われる。

- ➡ 神岡小学校 ➡ 桜ヶ丘体育館 徒歩20分、車8分
- ➡ 神岡中学校体育館 ➡ 桜ヶ丘体育館 徒歩8分、車3分

・用具の保管場所がない

➡ 今回の事業に限り、神岡中学校長の了解を得て、神岡中学校体育館舞台裏に臨時用具置き場を設置

- ・**バドミントンなどの支柱は学校が管理しているため、随時利用不可**
- ➡ 毎回前日迄に学校に連絡し準備



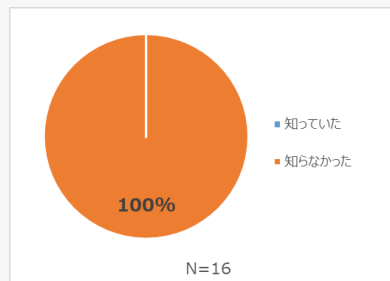
②の実証

専用HPを作成しプログラム予約を可能にした
HPのQRコード⇒

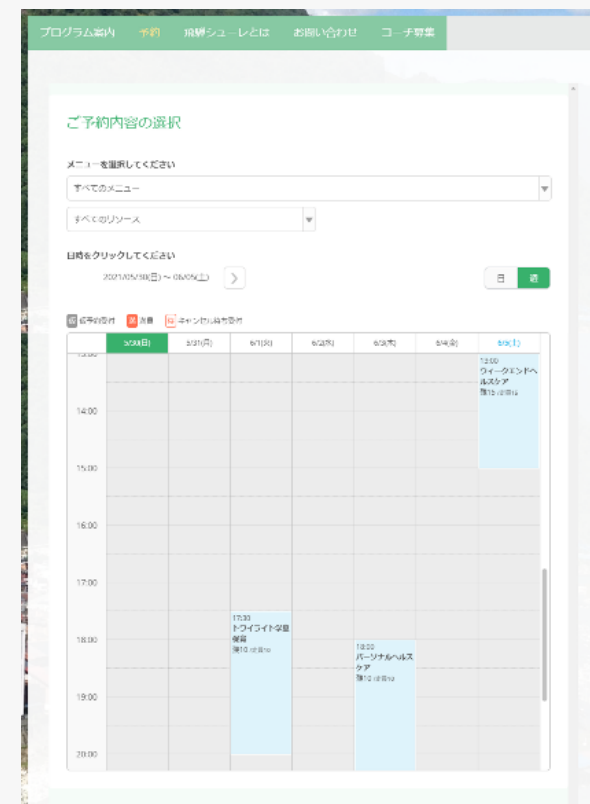
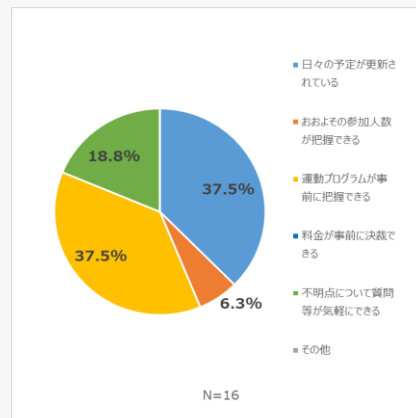


⇒ 場所予約は指定管理者が担うためプログラム予約に限られた。実際のところHPの存在告知が行き届かず（83%が知らなかった）、HPの役割を十分果たせなかった。とはいえ、知っている人からは「使いやすい」という反応も見られた。また、実施される運動プログラムのスケジュールやおよその参加人数が把握できることも改善の方向性として示唆されている。「プログラム予約がネットでできる！」システムは、今後の飛騨シューレの活動に大いに役立つ。

HPの認知度



HPの利便性について



③の実証

3つのプログラムを実施することを優先（参加費の徴収の試みを含む）

カテゴリー	対象	目的・概要	提供プログラム	場所
PHCP (Personal Health Care Program)	<u>一般成人</u> - 高齢者	「ひとりではできない」を「いっしょにしましょう！」に意識改革。<u>インストラクターが待機し、利用者のニーズにマンツーマンで応える。</u>	- エクササイズ・ウォーキングⅠ - ライフロングスポーツⅠ（ゴルフ、テニス、バドミントン自由選択） - フィットネス・ワークアウトⅠ（コーディネーショントレーニング＆パワーキープトレーニング） - A I K I - Ⅰ	神岡中学校体育館
TCCP (Twilight Child Care Program)	<u>子供（小学生以下）</u>	<u>17時半以降の学童を実現。</u>「学童保育」を「潜在能力を伸ばす場」に意識改革。子供たちに「思いやり」「仲間づくり」「自主性」「自立・自律」を気づかせる	- テニス - バドミントン - ホッケー	神岡小学校体育館
WHCP (Weekend Health Care Program)	<u>中学生</u> <u>高校生</u> - 大人	<u>「部活動」を「ウェルネス活動」に意識改革。</u>健康意識向上と人生を通じて楽しめるスポーツ活動の提供	- ライフロングスポーツ（ゴルフ、テニス、バドミントン自由選択） - エクササイズ・ウォーキングⅡ - フィットネス・ワークアウトⅡ（コーディネーショントレーニング＆パワーキープトレーニング） - A I K I - Ⅱ	神岡中学校体育館

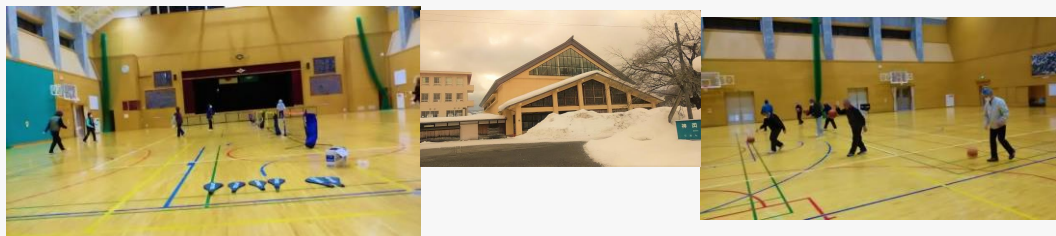
● PHCPについての課題

➡ **寒冷地**のため、冬場の実施が厳しかった。**1**月以降も計画したが、**夜間の体育館室温が0度もしくは氷点下**のことがあり中止した。

➡ 当初、**男女混合**で募ったが、一部の参加者から「**男女別の方が参加しやすい**」という提案があったため、実証的に男女別にプログラムを変更してみた。周囲を気にせずのびのびからだを動かせた、という参加者の声があった。

➡ 参加費1回500円の検討

事前調査では、**500円**という設定に対して「参加を躊躇した」と回答した人が**3割**程度見られたが、**終盤の調査では、「500円が妥当」と回答した人が7割程度**だった。また使い道は、運営組織のため、場所代、講師代、といろいろ分かれた。今回は、人材確保である国内外の学生や活動資金のための**ファンド**、というとらえ方で徴収した。 $(9 \times 6 + 8 \times 6 = 102 \times 500 \text{円} = 51,000 \text{円})$



● PHCP (19:00～20:30)

プログラム	日付	種目	参加人数	
			男性	女性
PHCP (19:00～ 20:30)	10月12日	ゴルフ		8
	10月13日	ゴルフ	9	
	10月26日	ゴルフ		8
	10月27日	ゴルフ	9	
	11月9日	ウォーキング		8
	11月10日	バドミントン	9	
	11月23日	バドミントン		8
	11月24日	ボール	9	
	12月8日	バドミントン	9	
	12月14日	テニス		8
	12月15日	テニス	9	
	12月21日	テニス		8

● TCCP実施にあたっての課題

➡ 実施できなかった

・校舎改修工事が計画より遅れ、工事車両の出入り等で使用予定の体育館駐車場および外部者出入り口付近が大変狭くなっており、**安全性に不安がある**状態となった。

・夜間20時までの預かりについて、オブザーバーから以下2点が提起された。

1 保護者同伴ではないのに20時以降外出している状態にこどもを置くことは、普段学校で「早寝」と指導していることと**矛盾**するのではないか

2 17時半から20時までの預かりでは、夕食はどうか、また食事提供の場合、**アレルギー対策**はどうか、さらに、**コロナ感染予防**からいえば、多人数の飲食は控えるべきではないか。

➡ 上記の意見を受けて、TCCPは現実的に開催が困難な状況になった。ただし、次年度以降の実施を見据課題や解決の方向性を議論することとした。



●WHCP開催にあたっての課題

➡ 当初対象は中学生以上としたが、参加は難しかった。そのため、小学生にも対象を広げ声掛けしたところ、送迎を兼ね保護者と一緒に、というファミリー参加が主流だった。

●中学生の参加阻害について、オブザーバーから4点提起された。

- 1 部活改変に乗じたプログラムだという考え方が中学生には理解しにくかった。
- 2 週末土曜日は部活なので日曜日は自分の時間にしたい。
- 3 スポーツは競技スポーツ、という思い込みがあり、生涯楽しめるスポーツという認識はないに等しい。
- 4 保護者の認識も子どもと同じ。

●ファミリー参加にしてよかったことを参加保護者にヒアリングしたところ、おとな目線ではあるが下記のような感想を得られた

- 1 おとなの運動不足解消
- 2 こどもとの時間の確保
- 3 こどもが安心して参加できる。



また、実施時間の一部として、小学校6年生だけの時間を作ったら、部活につなげたいという子どもと、部活とは別で毎週日曜日のプログラムを続けたい子どもがいて大変興味深かった。部活改変の考え方は小学生のうちから伝えていくのも一手だと思った。

	10月24日	ゴルフ10:30~12:00 バスケット13:30~15:00	10	3
WHCP	10月31日	ゴルフ10:30~12:00) バスケット13:30~15:00	6	4
	11月7日	バスケット10:30~12:00 ゴルフ13:30~15:00	4	4
	11月14日	バスケット10:30~12:00 ゴルフ13:30~15:00	5	3
	11月21日	バスケット10:30~12:00 テニス13:30~15:00	4	3
	11月28日	バスケット9:00~10:30 バドミントン10:30~12:00)	6	3
	12月5日	バスケット9:00~10:30 ホッケー10:30~12:00	5	3
	12月12日	バスケット9:00~10:30 なわとび10:30~12:00	4	4
	1月23日	バスケット9:00~10:30 テニス10:30~12:00	4	4
	1月30日	バスケット9:00~10:30 ホッケー10:30~12:00	4	4
	2月6日	バスケット9:00~10:30 なわとび10:30~12:00	4	4
	2月13日	おやすみ	なし	なし
	2月20日	おやすみ	なし	なし
	2月27日	バスケット9:00~10:30 ボール10:30~12:00	-	-

★人材の確保★

➡ 外部人材と地域人材の連携

発想力に優れグッドコーチングスキルをもった人材を外部から入れ、**地域人材をエデュケート**する。そのため**地域人材と外部人材（大学生インターン等）と連携体制の構築**と事業による地域活性を試みる

➡ どうしてUCLAなのか??

飛騨シュレーの活動研究のため、2021年3月～7月神岡に滞在していJSPSのリサーチフェロー、**フレッド・アリエル・エルナンデス氏の提案および協力**により海外国内の大学生を巻き込んだ**インターンシッププログラム実施計画**を遂行。**エルナンデス氏がUCLAの教員であることから**、2021年以降のUCLAインターンシッププログラムに関してスーパーバイザーを委任了解を得る。事業実施期間中である**6月にはUCLA担当部署との打ち合わせも済み、インターン事業受け入れ組織としての登録も終了**していたが、世界的なコロナ感染禍による影響で、**2021年度のすべてのUCLAの国際プログラムが中止**。そのためUCLAの学生たちの日本への渡航ができなかった。

➡ 国内の学生へのアプローチ

サポーター募集を早稲田大学法学部内、東京大学教育学部内の一部で告知した。UCLAの学生との交流や情報交換をしながら、自らの研究について研鑽を積むのが目的。

➡ 地域に活力を！

同時に大学生世代がいない山間部のこどもたちやおとなのもやおとなの人々にとって、彼らとの触れ合いが「外へ目を向ける」きっかけとなり、地域の活性化にもつながると考えた。

➡ 来年度から

国内外の学生をスタッフとする活動は、コロナ禍で実現しなかったが、来年度に向けさらなる準備を進めている。





To Committee Members,

I am writing to inform and update the committee on the status of the proposed Hida Schule and UCLA student internship program. As you know, the COVID-19 global pandemic has been a significant obstacle for university programs. The previous year, UCLA only allowed virtual internships and travel to Japan was very restricted, meaning that not students were able to participate in the summer activities. This year we are confident that UCLA students will be able to participate in the summer internship program and join Hida Schule in Hida City. There has been a renewed sense of international collaboration as the world opens back up; UCLA is again allowing students to engage in international travel for academic purposes and the Japanese government has allowed a more international academic and scientific travel.

The plan for soliciting applicants, choosing student candidates, and arranging their arrival to Japan has remained the same except that the entire process is moved earlier about 2 months to accommodate visa processes (March instead of May) and provide successful applicants time to prepare for the independent portion of their internship program. UCLA MA students in the Public Health Department apply for summer internships in March and we have planned accordingly so as to maximize the applicant pool for our program in Hida. Once students arrive and are settled in Hida City, they will engage in the internship program as previously described in the application.

Sincerely,

Fred Ariel Hernandez, PhD

Lecturer in Disability Studies, University of California, Los Angeles

Postdoctoral Researcher, Anthropology, University of California,

サポーター募集中

飛騨の山奥で、こどもや地域の方々のヘルスケアプログラムをサポートしながらUCLAの学生と交流しませんか？
UCLAの学生は修士課程インターンシッププログラムの一環として参加します。
したがって、何らかの研究課題をもって参加するとより有意義です。
主催：総合型地域スポーツクラブ 一般社団法人飛騨シューレ（岐阜県飛騨市神岡町）
期間：6月下旬～9月初旬
募集人数：期間中の日程を区切り、Max 6人でシフトを組みます。
参加費用：交通費（8,000円支給）と滞在期間中の食費（時々畑からの無償食材あり）
宿舎は飛騨シューレのシェアハウスです。UCLAの学生も同宿します。
締め切り：2021年6月10日23時55分

応募方法：自己紹介と応募の動機をワードで作成し yuya@za2.so-net.ne.jpへ送信ください。
折り返しの連絡先も忘れず記入ください。
後日オンラインインタビューをして決定します。
なお、参加確定後、改めて主催者が必要とする情報と誓約書を提出していただきます。
問い合わせ先：一般社団法人飛騨シューレ事務局 yuya@za2.so-net.ne.jp

*このプログラムは2021年以降も毎年行う予定です。
*諸事情で変更がなされることを予めご了承ください
なお、参加確定後、改めて主催者が必要とする情報と誓約書を提出していただきます。

問い合わせ先：一般社団法人飛騨シューレ事務局 yuya@za2.so-net.ne.jp

*このプログラムは2021年以降も毎年行う予定です。
*諸事情で変更がなされることを予めご了承ください



現場の声

今回の事業で強く感じたのは「学校体育施設を学校が抱えている限り有効利用はなかなか厳しい」。「**学校のもの**」ではなく「**地域住民のもの**」であれば門戸はどんどん広がるだろう。ただ、諸々の課題解決に要する手間と時間をだれがどのように担うのか・・・。

学校体育施設を民間が管理するとしたら、学校で利用する時、つまり授業や行事の場合、学校が管理者に予め予約し空き時間はすべて民間の有効利用に任せる。すでに入出口は一般用があるわけだから、例えば**認証式オートロックにすれば**、セキュリティは整う。また、寒冷地の施設には冷房は不要だが、せめて**暖房設備はほしい**。また体育館内の施設が活かされていないのも目の当たりにした。ミーティングルームや器具庫があるにもかかわらず**一般は使えない**。

学校体育施設は、まさに**地域コミュニティを実現する場**と思う。そこで繰り広げられる**健康増進・体力向上プログラム（PHC）**…そして、こどもからおとなまでが一堂に会する場…立派な建物である学校体育施設を**地域のコミュニティの場、地域の拠点にすべきではないだろうか**。

まとめ

学校体育施設は誰のためのものか
Who can make
the most effective use of
school sports facilities?

学校管理から地域管理へ
そしてPHC (public health care)的
地域コミュニティの場に

*From School Administrative Management
To Regional Management
And to the Local Community Place
for Public Health Care*

学校体育施設の有効利用のための3ポイント

- ① **地域（民間）管理** + ICTの積極活用
- ② **魅力あるプログラム**（シーズニングスポーツに着目）
+ **ユニークな人材登用**
- ③ **臨機応変の対応** + **参加費の活用（ファンド化）**

飛驒シュレの学校体育施設有効利用、今後の展開

- 学校体育施設の**地域管理化**を目指し行政に働きかける。
- **PHCPの継続**→4月から実施（月2回ペース）
- **WHCPの継続**→3月以降も継続➡プログラムの一部を部活改変のひとつの試みとする
- 学校体育施設の冬場の運動場に着目。3月積雪十分な運動場を使いクロスカントリースキープログラム実施→冬場の有効利用
- **インターンシッププログラムの実施**→地域活性化の**起爆剤**に
- **Kamioka Sport Complex**を行政と地域のスポーツ関係者に提案。地域を巻き込んだ**ネットワークづくり**をし、外部と地域の人材交流や地域プログラムと学校体育施設の有効利用を結合

ご清聴ありがとうございました！！



一般社団法人 飛騨シュール

HIDA SCHULE

All about Hida Schule → <https://www.facebook.com/hidashule>

資料その1 : 神岡町内学校体育施設についての事情

神岡小学校・中学校については、夜間や休日等一定程度の空きがあるものの、市・教育委員会等との意思疎通をこれまで図ってきていなかったこともあり、稼働率が低いまま放置されてきた経緯がある。

令和**2**年から遡り過去**3**年間の統計資料によると、神岡小学校の年間利用数(平均)は、**874**人であり、コロナ禍の影響があることを勘案しても、市立体育館の過去**3**年間の平均年間利用者数**33,412**人に比べると圧倒的に利用者数が少ないことが分かる。しかも小学校の利用者に注目すると、特定の**1～2**団体(スポーツ少年団)によるものであることが分かり、利用者層に偏りがある。また、利用料も免除になっているため収益化ができていないのが現状である。神岡中学校体育館については、過去**3**年間の平均年間利用者数が**3,287**人であり、神岡小学校よりは多いものの、固定された曜日に部活動として利用している生徒がほとんどであり、一般利用はほとんど皆無である。

また、「これまでの慣習」「団体間の譲り合い」により地域のスポーツ施設の利用日程が決められてきたことから、他の地域に見られる「利用調整会議」のような会議体がない。そのため、新規に借りる者にとってどのような手続きで利用を申し込めばよいか分かりづらい状況も課題として挙げられた。

さらに、学校体育施設の予約管理は、桜ヶ丘体育館(神岡小学校から車で約**10**分程度)において紙媒体で管理しており、鍵の授受も桜ヶ丘体育館にて行われることから、利用者は桜ヶ丘体育館に行かないと一覽的に予約状況を把握することも鍵を授受することもできない状況である。体育館利用者からはウェブで予約状況を一覽的に把握したり、鍵の管理を柔軟化してほしいという要望が見られた。

資料 その2 : 3つのプログラムの課題

●PHCPについての課題

- 1 寒冷地のため、冬場の実施が厳しかった。1月以降も計画したが、夜間の体育館室温が0度もしくは氷点下のことがあり中止した。
- 2 当初、男女混合で募ったが、一部の参加者から「男女別の方が参加しやすい」という提案をいただいたため、実証的に男女別にプログラムを変更してみた。のびのびからだを動かせた、という参加者の声があった。(アンケート結果参照)

●TCCP実施にあたっての課題

- ・校舎改修工事が計画より遅れ、工事車両の出入り等で使用予定の体育館駐車場および外部者出入り口付近が大変狭くなっており、安全性に不安がある状態となった。
- ・夜間20時までの預かりについて、オブザーバーから以下2点が提起された。

- 1 保護者同伴ではないのに20時以降外出している状態に子供を置くことは、普段学校で「早寝」と指導していることと矛盾するのではないか
- 2 17時半から20時までの預かりでは、夕食はどうするのか、また食事提供の場合、アレルギー対策はどうするのか、さらに、コロナ感染予防からいえば、多人数の飲食は控えるべきではないか。

上記の意見を受けて、TCCPは現実的に開催が困難な状況になった。ただし、次年度以降の実施を見据課題や解決の方向性を議論することとした。

●WHCP開催にあたっての課題

当初対象は中学生以上としたが、参加は難しかった。そのため、小学生にも対象を広げ声掛けしたところ、送迎を兼ね保護者も一緒に、というファミリー参加が主流だった。中学生の参加が阻害されたことについて、オブザーバーから以下4点が提起された。

- 1 部活改変に乗じたプログラムだという考え方が中学生には理解しにくかった
- 2 週末土曜日は部活なので日曜日は自分の時間にしたい
- 3 スポーツは競技スポーツ、という思い込みがあり、生涯楽しめるスポーツという認識はないに等しい
- 4 保護者の認識も子供と同じ

ファミリー参加にしてよかったことを参加保護者にヒアリングしたところ、大人目線ではあるが下記のような感想を得られた。

- 1 大人の運動不足解消
- 2 子供との時間の確保
- 3 子供が安心して参加できる

また、実施時間の延長として、小学校6年生だけの時間を作ったら、部活につなげたいという子供と、部活とは別で毎週日曜日のプログラムを続けたい子供がいて大変興味深かった。部活改変の考え方は小学生のうちから伝えていくのも一手だと思った。

●海外・国内大学生を巻き込んだプログラムの実施

6月にはUCLA担当部署との打ち合わせも済み、インターン事業受け入れ組織としての登録も終了していたが、世界的なコロナ感染禍による影響で、2021年度のすべてのUCLAの国際プログラムが中止になったため、日本への渡航ができなくなった。来年度に向けさらなる準備に向かう。

資料その3： 中間報告時のオブザーバーたちからの声

●『新型コロナウイルス感染の懸念が続く中、できるプログラムを確実にスタートさせたことに意義がある。まず、その点を評価したい。TCCPについては、子どもの安全管理を考えれば、開始延期もやむを得ない。活動時間や食事など、子どもの安全に関する保護者の懸念は理解できる。引き続き、保護者や行政から指摘された懸念の解決方法探し、次年度のプログラム実施に向けて努力してほしい。PHCPにおいて、性別で参加日を設ける事は、理想的ではないと考える。運動そのものに対する障壁と、それとは別の文化的障壁が存在することが見えてくる。女性専用フィットネスクラブが隆盛なことを考えれば、地域を越えた障壁かもしれないが、地域的なものであるとしたら、解決に向けて併せて努力してほしい。実施されたPHCPおよびWHCPに関しては、参加者総数、その性別、年齢等のデータを併せて、報告してほしいと考える。

● 時期的に検証期間が短くなったこと、TCCP等が実検証ができないなど、大変ご苦労されたものとお察します。しかし反面、TCCPの課題などが客観的に見えてきたものと考えます。また、WHCPは対象を小学生に広げた事が原因なのか、ファミリー層が主流になったものが、当初の仮定とどう変わっていったか興味があります。

● 学校体育施設の地域拠点化を目指す3つの項目（図表）の検討・評価が不十分。とくに市教委など行政とどう連携したのかもっと具体的な記述がほしい。学校体育施設の利便性より不便な点をどう解決するかの議論が必要ではないか。

● TCCP(結果的には実現しなかった)の狙いの中で、子どもたちがこのプログラムに参加することでどのように変わるのか、もっと具体的に示したほうがよい。保護者へのアンケート項目で「シューレの活動に参加させたいかどうか」という設問があるが、「いいえ」と答えた保護者には記述をさせたほうが良い。

資料その４：

事業推進委員会委員からの声

第1回事業推進委員会（2021年6月1日）

- ・飛騨市内の部活動の特徴を踏まえた検討が必要。強い部活動は、積極的に練習をしたい生徒が多い一方、競技志向の低い生徒の多い種目についてはそれに応じたプログラム内容とすべき。
- ・生徒は非常に忙しい。そのため、本プログラムに積極的に参加できる時間をさけるかには疑問が残る
- ・保険の扱いに注意が必要。責任範囲の明確化が重要である。
- ・コロナウィルスの拡大もあり、どの程度実施ができるか疑問。
- ・次年度以降、継続して事業を実施する観点が重要。国の補助金が付いたから今年度だけ実施したということにならないように注意してほしい。

第2回事業推進委員会（2022年2月14日）

- ・岐阜県内の他の総合型地域スポーツクラブでも、HPからの予約等が課題になっている。先進事例として共有すべき。
 - ・地域部活動化の流れは子供たち・親もはまだ予見できていない。今年度の取組でも部活動とレクリエーションのスポーツのすみ分けが分かりにくい部分があったと思う。子供たちが主体的に取り組めるようなスポーツへのかかわり方を模索する必要がある。
 - ・学校施設の管理について、今後地域部活動化する流れを踏まえると、備品管理も含め、施設管理全般の在り方を見直す余地がある。
 - ・次年度以降海外大学等からのインターンシップを進めていただきたい。指導者不足の解決につながる方策と考えられる。
 - ・今後市で整備する予約管理システムと、学校体育施設の予約管理についても連携を検討する必要がある。
 - ・親子で参加する観点は子供の参加を促す意味で重要。保育の観点は魅力的と感じたので、次年度以降につなげて欲しい。
- 飛騨シュレーに加え、行政等皆様にご協力を頂きつつプロジェクトを進めることが重要。今年度は参加者が少なかったが、次年度以降少しずつその規模を広げられると良い。その際には身近な者からの評判が重要になるので、その点に留意した取組を期待する。